



# トイ・プードルで気をつけたい病気は？

## トイ・プードルの疾患統計

2008年4月1日から2009年3月31日までにアニコム損保に契約した0～10歳のトイ・プードルは26,609頭で、品種別の割合では3番目に多い。

犬全体の発症率と比較してトイ・プードルの発症率が高い疾患は、18分類中以下の5疾患であった。  
**歯・口腔の疾患 1.6倍、呼吸器疾患 1.3倍、循環器疾患 1.2倍、眼の疾患 1.1倍、肝・胆道系の疾患 1.1倍** 【表】

また、筋骨格系疾患のうち、「骨折」と「膝蓋骨脱臼」についてその発症率を調査したところ、0歳において両疾患とも犬全体の平均と比較して高い発症率となることがわかった。

**骨折 トイ・プードル:2.0%、犬全体:1.3%**  
**膝蓋骨脱臼 トイ・プードル:1.5%、犬全体:1.2%**

【表】トイ・プードルと犬全体の疾患別発症率の比較

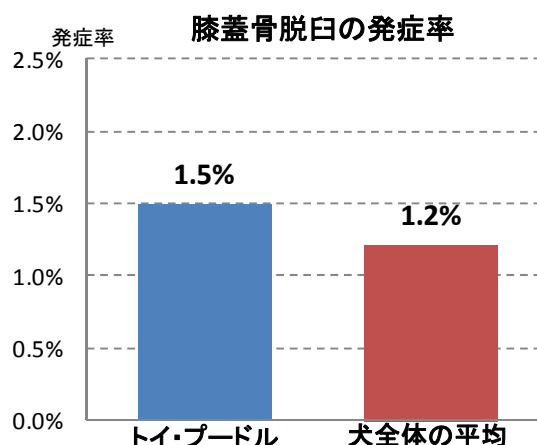
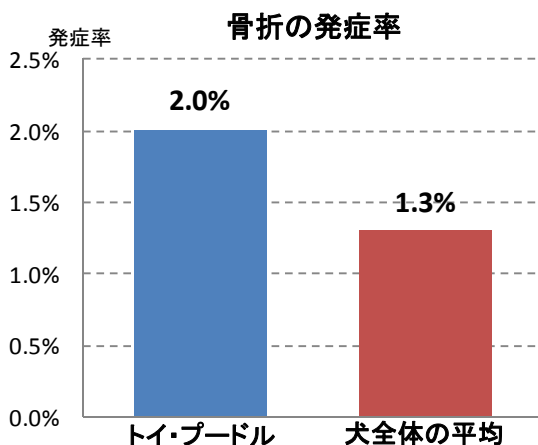
		(a)	(b)	a/b
		トイ・プードル	犬全体	
		26,609頭	217,150頭	
1	10. 歯・口腔疾患	3.2%	2.1%	1.6
2	2. 呼吸器疾患	3.3%	2.6%	1.3
3	1. 循環器疾患	4.4%	3.6%	1.2
4	8. 眼の疾患	9.5%	8.6%	1.1
5	4. 肝・胆道疾患	2.9%	2.6%	1.1

【集計方法】

※ 2008年度にアニコム損保に契約した犬217,150頭(0～10歳)を対象に調査した。

※ 契約満了または死亡解約となった各個体の1年毎の契約について、その契約が開始した年齢毎に1契約=1頭とみなし、当該疾病について1回以上の請求があった犬の割合を発症率(発生率)とした。

【図】0歳でのトイ・プードルの骨折、膝蓋骨脱臼別発症率



0歳のトイ・プードルでは  
**骨折、膝蓋骨脱臼**  
 に特に注意が必要！

